

V 日高振興局

1. 地元の花を見て触れて知る・・・ 「花育」活動を実施

日高地方農業士会（会長：平林孝郎氏）と日高地方花き連合会（会長：弓倉弘氏）は、共催により「花育」活動を5月13日に実施した。「花育」とは、花とふれあう機会を通して豊かな心を育む活動として全国的に広がっている取り組みである。全国有数の花き産地である当地方の花の生産について小学生に知って欲しいと毎年実施しているもので、今年で14回目となる。

本活動にあたっては、管内の花き生産者からスターチスや宿根カスミソウ、ガーベラなど約3,000本が提供された。それらを用いて花き連合会役員および農業水産振興課員が花束を作成し、日高地方の花を紹介したパンフレット、クリアファイル、先生用の参考資料とともに管内の小学校31校の5・6年生（80クラス、1,202名）に届けた。また、希望のあった9校では贈呈式を行い、うち5校ではミニ花束づくり体験を実施した。

日高川町立川辺西小学校では、5年生を対象に贈呈式が行われ、平林会長と弓倉会長らが児童代表に手渡した。平林会長は「きれいな花を眺めるとやさしい気持ちになります。皆さんには元気でやさしい人に育ててほしいです」とあいさつした。続いて、弓倉会長が「スターチスは60種類くらいあって、花の形や色がそれぞれ違います。今日は7種類あるので見比べてみてください。持ち帰った花は花瓶に入れて、水は毎日替えましょう。直接日に当たらない風通しの良いところに置くと花は長持ちします」などと話した。

その後、ミニ花束づくり体験を行い、児童らは「花束を作って花が好きになりました。お母さんにあげて喜んでくれたら嬉しいです」などと笑顔で話していた。

農業水産振興課では、今後も、両会の活動を支援するとともに、花き産地の更なる発展に取り組む。



作った花束を持って記念撮影（川辺西小学校）



贈呈式（稲原小学校）



ミニ花束づくり体験（岩代小学校）